

## 火打山山行記録



目的地	火打山	期 日	平成20年4月29日(火・祝): 終日快晴
山行人	笠原正雄単独	特 記	もう一度、中一日でボリュームのある山へ

地名	(着)～(発)	記 事
与板	午前4:55発	西山より高速。運転しながら朝食。妙高Pでトイレタイム。快晴。
笹ヶ峰駐車場	7:00～7:30	昨年より雪が多く、雪壁の中に駐車スペース。数十台あり。雪解け水が凍っていて滑る。スキーを担いでのものが多い。歩き出しからアンダーシャツ一枚になり、日焼け止めを塗る。雪は凍みている。スキートレースに上がると滑りやすい。
黒沢の橋	8:10	林間歩きでスキーヤーを追い越し、橋を渡った所で数人を追い越す。橋の両側が雪ブリッジとなっていて、スキーはそこを渡っている。橋の中央部分だけ木が露出している。台地が上がって左に進み、右旋回するように登る。
十二曲がり中間	8:35～8:40	固くなった下りツボ足トレースが丁度良い階段となっていて、高度を稼ぐ。黒沢を見下ろせる尾根上に上がり休む。ビーコンを下げているスキーヤー4人隊等を追い越す。もう暫らく痩せ尾根の急登が続く。
オオシラビソ林	8:50	最後は四つん這いを交えての急登を終える。林の中に入るとヒンヤリする。
山スキーが行く	9:05	立ち枯れた木に囲まれた明るい平坦地で少し立ち止まり食べる。スキーヤーが上がって来て、ここでスキーを履いて先行して行った。
富士見平	9:35～9:40	行く手が良く見える。妙高も見えるが、やや靄っている。
北アルプスを望む	9:55	黒沢岳のトラバースを終え、平坦雪原歩きで八王子からの単独ツボ足者に追付き、少し会話する。次回雲取山行に向けて、奥多摩駅付近に町営の有料駐車場があるとの情報を得る。霞んではいるが、後立山が見える。最奥は五竜だろうか。
高谷池ヒュッテ	10:05～10:30	トイレ棟の脇を通って正面に出る。男と若い女4人隊他が休んでいた。八王子男は素通りして行った。積雪は昨年より多い。シャツを重ね着する。35缶を飲み、水、ガス等昼食グッズをデポして山頂を目指す。殆んどの者が天狗の庭を直進して行くが、右の夏道尾根を目指して進む。
夏道尾根	10:45	僅か疎林を登り尾根に上がる。5分後、木道が一部露出している。風が出てきて少し寒く感じる。尾根の左側はクラストした雪が解けだして、鱗状になっている。右側は表面薄く新雪である。こちらの方が歩きやすい。先行4人隊を追い越す。
最後の急登手前	11:30	尾根平坦地で雨具上下を着る。この後の登りの途中で八王子男が降りて来た。
火打山頂	11:48	数人が居た。頂ケルン周囲は雪が剥けている。風が強い。焼山の噴煙が見える。そしてそこに向かう尾根にツボ足トレースがしっかり付いていた。天狗原山、金山、雨飾山を同定する。右下方向には海谷山塊を見る。奥に北アルプスが霞む。暫らくすると4人隊が前後して上がって来た。
下山へ	12:15	ピッケルに持ち替えて、シリセード下山へ。雪が悪く滑るが良くない。
高谷池ヒュッテ	12:50～1:45	小屋前ベンチで餅を焼き、カップそばでランチ。
富士見平	2:15	雨具上下を脱ぐ。だんだんと気温が上がって来て、雪が腐って来た。
立ち枯れ地	2:30	オオシラビソ林の末端、朝休んだ同じところで立ち休み。
黒沢橋	2:50	十二曲がりを迎えず右斜面を下る。軟雪となって、足元は滑り落ちる心配はない。橋を渡った所で半袖になり、もう一度日焼け止めを塗る。
笹ヶ峰駐車場	3:20	八王子男が到着し、タバコをふかしていた。車に戻り、俺も早速一服点ける。彼は明日は戸隠山と言う。イチゴ一粒をご馳走になる。
与板着	5:50	西山で高速を下り、明後日から、暫定税率復活で値上がりが見込まれるガソリンはスタンドに列が出来ていた。順番列に並んで給油し帰宅する。

今年も同時期にこの山に出掛けた。人気の山である。やはり山スキーが多い。雪は昨年より多かったが、雪質は急速に暖かい日が続いたために、比較すれば良くなかった。けれども朝のうちは固く締まっていたオオシラビソ林への登りは下りトレースを貰って比較的快調に登ることが出来た。全く一日中青空が広がり、絶好天であった。

一方、昨年同山行の後より、焼山が気になり出している。今回はそこへのアプローチを確かめるつもりで出掛けた。来年は、計画の中に組み込みたいと思っている。但し、好天が絶対条件である。